

■令和6年度版『ひろがる言葉 小学国語』4年 年間指導計画・評価計画

2024年3月

〔第3学年及び第4学年〕目標(「学びに向かう力、人間性等」の単元目標)
(1)日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
(2)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
(3)言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

学期	月	時数	単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／☆学習用語	領域	時	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
1学期	4月	2 (話す聞く2)	よく見て、よく聞いて、受け止めよう つないで つないで 教科書:P8 ◇相手が言葉や動きをとおして伝えたいことは何か考えながら見たり聞いたりし、相手が伝えたいこと の中心を捉え、自分の考えをもつ。 ☆学習用語:連想／ジェスチャー	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. リード文を確認する。 ＊リード文を確認し、活動の見通しをもたせる。 2. 「れんそうゲーム」の流れを確認する。 ＊数名の児童が見本を提示したり、P8の二次元コードから動画でゲームの 流れを確認したりする。 3. ペアで「れんそうゲーム」をする。 ＊相手の言葉を受け取り、連想した言葉を相手に返す、言葉のキャッチ ボールをする。どの児童も安心して参加できるようにする。 4. グループで「れんそうゲーム」をする。 ＊四人程度の小グループを作る。 ＊時間でくぎって、メンバーを変えて行う。 ＊全員が慣れてきたら始まりの言葉と終わりの言葉を決めて、連想しなが ら終わりの言葉にたどり着くという条件をつける。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに 気付いている。((1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問 したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたい ことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりす る活動。(A(2)ア) 【態度】 ・相手の言葉や動きを受け止め、相手が伝えたいことは何か すすんで考え、学習の見通しをもって自分の考えをもとうとし ている。
					2	5. 「ジェスチャーゲーム」をする。 ＊「ジェスチャーゲーム」の流れを確認する。 ＊四人程度の小グループを作る。 ＊時間でくぎって、メンバーを変えて行う。 〈ふり返ろう〉 6. 学習の振り返りをする。 ＊言葉で伝えることと体で伝えることの違いについて考えさせうえて、言 葉、身ぶりや手ぶりを組み合わせることによって、より伝えやすくなること にも気づかせる。	
1学期	4月	1	楽しく声に出して読もう 春のうた／あり 教科書:P10 □繰り返し音読をしながら、言葉のリズムや響き を味わい、イメージの広がりを楽しむ。 ☆学習用語:音読／作者／題名／様子	読む	1	1. 『春のうた』の範読(教師の範読か、デジタル教材の音読)を聞いて、詩 の世界のイメージをもつ。 2. 「かえる」や「冬眠」について、知っていることを自由に発表する。 3. 繰り返し音読し、それぞれの「ケルルン クック」の読み方を話し合う。 ＊動作化を積極的に取り入れる。特に擬態語「つるつる」「そよそよ」を、手 を用いた動作化をして、言葉のイメージを身体でつかめるようにする。 ＊一連と四連で「ほっ」が繰り返されていることに注目させる。「まぶしい」か ら、「おおきなくもがうごいてくる。」へと、感覚が目覚め、気持ちも高ぶって くることを理解させ、それが「ケルルン クック」の鳴き声に反映されるように感 じさせたい。 4. 春を喜ぶかえるの姿を想像しながら、「ケルルン クック」の読み方を工 夫して音読する。 ＊詩全体が「春のうた」ではあるが、それを支えているのは「ケルルン ク ック」の響きである。間や声の調子、リズムなどを考えて音読させるようにす る。 5. 『あり』を音読する。 ＊「ありーありっこないさ」の音の連鎖と繰り返しを楽しみながら音読させ る。 6. 今までに「あり」と関わった経験をペアで話し合う。 7. グループで『あり』を音読しながら、それぞれの「あり」の様子を想像する。 ＊「『あり』だから『ありっこない』なんだ」という音の連鎖への気づきを大事に して、繰り返し(リフレイン)を楽しみながら読むようにさせる。 ＊各連が三行であることに気づかせる。 ＊「十八メートル」という数字が出てくるので、具体的にどのくらいの長さかを 発問して、大きさを捉えられるように配慮する。 ＊想像したありの姿のイメージが膨らむような音読、歌うように繰り返しのフ レーズを楽しむ音読を工夫して、調子よく読ませたい。	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読してい る。((1)ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情 景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し ている。(C(1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを 伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・すすんで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的 に想像し、学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたり しようとしている。

1学期	4月	10 (書く3)	一 物語の「ふしぎ」について考えよう 白いぼうし 教科書:P14 □物語の「ふしぎ」について考え、短い言葉で表し、紹介し合う。 ★ここが大事:できごとのきっかけをとらえる ☆学習用語:文／漢字／物語／場面／気持ち／地の文／様子／会話／登場人物／性格／言葉／ふしぎ／においや香りを表す言葉／できごとのきっかけ	読む	1 〈見通しをもとう〉 1.「物語の『ふしぎ』について考える」という学習の見通しをもつ。 (1)題名「白いぼうし」から、どんな物語か想像する。 (2)教師の範読を聞き、感想をノートに書く。 ＊ 作品から受けた感じ、疑問に思ったことをノートに書かせる。 (3)感想を話し合う。 ＊ 子どもたちの素直な感想を受け止め、単元の学習課題につなげる。 ＊ 「女の子」や「もんしろちょう」に不思議を感じる児童が多いと予想される。児童が「あれ?」と不思議に思う気持ちを生かして学習課題の設定につなげたい。 (4)単元名やリード文から、単元の学習課題「物語の『ふしぎ』について考えよう」について見通しをもつ。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(C1)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C1)イ) ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C1)エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ) 【態度】 ・場面の様子や登場人物の行動を捉えながら、すすんで物語の「ふしぎ」に思うところを見つけ、学習課題にそって「ふしぎ」について考えたことを短い言葉で表し、伝え合おうとしている。
					2・3 〈たしかめよう〉 2. 場面の様子や登場人物を整理し、不思議だと思ったことを見つける。 (1)物語を読んで、不思議だと思った場面とその理由をノートに書く。 ＊ どんどこが不思議だったか、具体的に示させる。 (2)全体を四つの場面に分け、それぞれの場面で、松井さんが出会った人や、もの・ことを確かめる。 ＊ 場面を分けるには、「時・場所・人物」に着目することを確認する。 ＊ それぞれの場面で松井さんがどのような人物やもの・ことに出会っているか、ノートに整理させる。 ＊ 表に整理すると考えをまとめやすいことに気づかせる。	
					4・5 〈くわしくよう〉 3. それぞれの場面の、松井さんの様子や気持ちを想像して、考えたことを話し合う。 (1)場面ごとの松井さんの様子や気持ちを、「たしかめよう」で整理したものに書き加え、松井さんの人柄を捉える。 ＊ P26の「言葉」とも関連させ、松井さんが関わった人物やもの・ことに着目しながら読むと、それぞれの登場人物の人物像が浮かび上がったり、その人物やもの・ことと接している松井さんの気持ちや人柄がより具体的に想像できたりすることを確認する。	
					6 (2)不思議に思ったことと関係がありそうなところを見つけ、考えたことを友達と話し合う。 ＊ P27の「ここが大事」を確認し、不思議なできごとが起こるきっかけを見つけ、そのきっかけとできごとをつなぎ合わせて読み、不思議なできごとが起こった理由や結末を考えさせる。 ＊ 松井さんの人柄と関連づけて考えることで、物語の「ふしぎ」が松井さんの人柄と結びついていることのおもしろさを味わわせたい。	
					7 〈まとめよう〉 4. 物語の「ふしぎ」について考えたことを、ノートにまとめ、友達と共有する。 ＊ 前時までの学習活動を振り返りながら、考えたことをできるだけ具体的に書かせる。	
					8・9 〈つたえあおう〉 5. 物語の「ふしぎ」についてまとめたものを短い言葉で表し、紹介し合う。 (1)「まとめよう」の学習活動でノートにまとめた考えをもとに、物語の「ふしぎ」について端的に短い言葉で表す。 ＊ P27の「ここが大事」を改めて確認し、作品の「ふしぎ」を生み出しているできごととそのきっかけとのつながりを意識しながら考えさせる。 (2)物語の「ふしぎ」をまとめた短い言葉を、友達と紹介し合う。 ＊ 短い言葉だけでなく、なぜその言葉で表したのか、理由もあわせて紹介させる。	
					10 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 (1)物語の「ふしぎ」について考えながら読むと、どのようなつながりが見つかったか振り返る。 ＊ 不思議なできごとが起こるファンタジー作品の魅力やおもしろさを改めて実感させたい。 ＊ P27「本を読もう」やP150『4 年生で読みたい本②』のファンタジー作品を紹介し、読書の広がりにつなげたい。 (2)短い言葉で物語の「ふしぎ」を表すとき、どのようなことに気をつけたか振り返る。	

1学期	5月	4 (書く4)	自分の気持ちに合った言葉で表そう 見つけよう、ぴったりの言葉 教科書:P28 ■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 学習の流れを知り、見通しをもつ。 * 少しずつ書きためていく活動であるので、意欲を継続させるためにも、書く目的を決めて取り組むようにさせる。 2. 心が動いたことを思い出す。 (1)心が動いたできごとをメモに書く。 (2)友達と交流する。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1)ア) ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・すすんで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見通しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。
					2 3. 心の様子を直接的な表現を使わないで表現する。 (1)教科書の例文二作品を読む。 (2)自分で工夫した表現を考え、交流する。 * 既習の教材文の中から探してよいことを伝える。その際、文章の中の会話文・情景描写・行動や様子を表す部分に着目させる。	
					3・4 4. 心が動いたことを書いたメモの中から、一つを選ぶ。 * なぜ、心が動いたのか(新しい発見や感情の揺れ動きの原因)について考えさせる。 * 心の様子を、工夫した表現で表すように伝える。 5. 文章を書く。 * 五、六文ぐらいの短い文章で書くようにさせる。 * 気楽に書かせ、書くことを習慣づけるようにさせる。 6. 文章を読み返し、よりよい表現があれば書き直す。 7. 書いた文章を読み合い、心が動いた瞬間についてさまざまな表現の仕方があることを知る。 * 書きためたものは、下巻の第七単元『自分の成長をふり返って』の話題・題材を選ぶ際に活用することを確認する。 〈ふり返ろう〉 8. 心が動いた瞬間を表現する言葉を選ぶとき、どんなことに気をつけたか振り返る。	
1学期	5月	2	漢字の広場① 漢字の部首 教科書:P30 △漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 ☆学習用語: あし／かんむり／つくり／部首／へん	漢字	1 1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 部首についての知識は、P50からの『漢字辞典の使い方』の学習に結びつくことを意識させるとよい。 2. 共通する部分から、何に關係のある漢字かを考える。 * 「部首と漢字の意味には深いつながりがある」ことを「日」「木」を部首とする漢字をもとに、具体的に考えられるようにする。 3. P30の下段の設問を解きながら、部首と漢字の意味とのつながりなどについて話し合う。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・すすんで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。
					2 4. P31の上段の設問に提示している漢字について、それぞれの部首を考える。 5. 巻末の『漢字を学ぼう』を使って、同じ部首の漢字を集める。 * ここでは、代表的な部首とその呼び名について理解させておきたい。	
1学期	5月	2 (書く2)	三年生で学んだ漢字① 教科書:P32 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4 6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 三年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 8. 作った文を互いに発表し合う。 9. 学習を振り返る。 * 漢字の部首について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
1学期	5月	2	二 けっかと考察とのつながりをとらえよう ぞうの重さを量る 教科書:P34 □象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。 ☆学習用語: 筋道	読む	1 〈見通しをもとう〉 1. 題名と本文を結びつけて、どのようにして象の重さを量ったのか確認する。 * P34上段に書かれている手引きを利用して読み取らせる。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで、読みやすい文章のポイントについて考えることをとおして、学習課題にそって、筋道立てて文章を書こうとしている。
					2 2. 「わかりやすい文章」とはどのようなものなのか考える。 (1)この文章の読みやすさを考察する。 * P35上段の「考えるすじみち」やイラストを利用して、「まず」「次に」「最後に」という文の構成がわかりやすさのポイントであることを確認する。 (2)自分でも「まず」「次に」「最後に」を使って、簡単な文章を書いてみる。 〈ふり返ろう〉 3. 学習を振り返る。	

1学期	5月	10 (書く3)	二 けっかと考察とのつながりをとらえよう 花を見つける手がかり 教科書:P36 □「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさえながら読む。 ★ここが大事:けっかと考察 ☆学習用語:記録／筋道／段落／結果／結論／考察／事実／比べる	読む	1 〈見通しをもとう〉 4. 単元扉を再度確認し、学習の見通しをもつ。 (1)もんしろちょうについて知っていることを話し合う。 (2)全文を読み、内容の大体を確認する。 2 〈たしかめよう〉 5. この文章でどのような疑問を解き明かそうとしているのか考える。 6. 本文中に幾つの実験が書かれているか読み取る。 3 7. 実験内容を表にまとめる。 * 児童の実態に応じて、個人作業を重視するかグループでまとめていくかを判断する。 4・5 〈くわしくよう〉 8. 三つの実験を比べ、それぞれの特徴について話し合う。 (1)実験1と実験2を比べて、日高先生たちの考え方の特徴を明らかにする。 (2)実験2と実験3を比べて、日高先生たちの考え方の特徴を明らかにする。 * 第2時に作成した表を再度見直したり、本文を読み直したりして考えさせる。 6・7 〈まとめよう〉 9. 結論部分を読み取る。 * 疑問に対する答えを明らかにする。 10. 日高先生たちの実験の進め方と、結論について考えたことをノートにまとめる。 * ノートにまとめるにくい場合は、グループや学級全体で話し合ってまとめてもよい。 8 〈つたえあおう〉 11. 前時にまとめたものを友達と読み合う。 * 自分と友達との同じ点や違う点、友達の書いた内容のよい点に注目させる。 9・10 〈ふり返ろう〉 12. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。(B(1)ウ) ◎「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・積極的に、考えとそれを支える理由や事例を捉えながら実験内容を読み取り、学習課題にそって、文章を段落相互の関係をおさえて読もうとしている。
1学期	6月	4	読書の広場① 分類をもとに本を見つけよう 教科書:P46 △学校や地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。 ☆学習用語:巻冊記号／所在記号／請求記号／図書記号／分類記号／ラベルの記号／日本十進分類法	読書	1 1. 「日本十進分類法」の仕組みを知り、分類記号を手がかりに本を探す。 (1)学習の見通しをもつ。 (2)「日本十進分類法」の仕組みを知る。 * 細かな分類記号を覚える必要はなく、本を探すときの手がかりとして使えるようになればよい。分類記号の読み方に注意する。 * 分類記号を見れば、本の内容や本の配架場所がわかり、容易に本が探せることに気づかせる。 (3)ラベルの記号について知る。 * 「図書記号」「巻冊記号」が表していることを知り、実際の本で確かめる。 (4)学校図書館で、分類記号を手がかりに、本を探す。 * ゲームの要素を取り入れた活動を行うとよい。 2 2. 自分の興味のあるテーマの本を複数の分類から探す。 (1)自分が興味をもっているテーマを決める。 (2)テーマに関連する本を複数の類から探す。 * 全ての類から見つけられなくてもよい。 (3)見つけた本を紹介し合う。 * 一つのテーマであっても、複数の類から探すことで、さまざまな観点から本が見つけられることに気づかせる。 3・4 3. 本を読んで、わかったことをカードに記録し、友達と読み合う。 (1)本を読み、記録カードを書く。 * 奥付を見て、書名、著者名、発行年、出版社を記録する。 使った本の書誌情報は必ず書く習慣をつけさせる。 * わかったことは、本の丸写しにならないよう、大事なことをまとめて書く。 (2)記録カードを友達と読み合う。 * 友達のカードを読んだり、簡単に紹介し合ったりする。紹介されて興味をもった本を読む時間を設け、読書の幅を広げられるようにするとよい。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・分類を手がかりにすすんで目的の本を見つけ、学習課題にそって読んでわかったことを記録しようとしている。

1学期	6月	2	言葉の広場① 漢字辞典の使い方 教科書:P50 △漢字辞典の引き方を理解し、活用する。 ☆学習用語:漢字辞典／総画数／漢字／音／訓／部首／画数／音訓索引／総画索引／部首索引／五十音順／片仮名／平仮名／見出し／索引／順序／筆順／漢字の成り立ち	言語	1 1. 学習の見通しをもつ。 * 教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. 教材文を読んで、漢字辞典の引き方を理解する。 * 漢字の読み方や意味、使い方などを知るには、漢字辞典を活用するとよいことに気づかせ、漢字辞典に興味をもたせる。 3. 手がかりによって、どの索引を活用すればよいかを理解する。 * 教材文にそって漢字辞典の引き方を確認させ、理解させる。漢字辞典は、部首索引・総画索引・音訓索引のどれかを利用して引くことを確認させ、実際に引きながら確認するようにする。 * 辞典によって、漢字の並び方のきまりや記号の使われ方が異なることがあるので、自分の持っている辞典を確認し、使えるように指導する。また、筆順が載っているなど便利な機能もある場合があるので、それに気づかせ、辞典の活用の幅を広げることもできる。 2 4. 設問に従って、部首索引・総画索引・音訓索引を活用して漢字を調べる。 * 一人一人が独力で、それぞれの引き方で調べられるようにする。 * 知らない漢字や熟語に出会ったときには、辞典を活用することの便利さを意識できるように、辞典の使い方に慣れさせておくといふ。 5. どの引き方で調べるといいのか、見通しが立てられるようにする。 * どの索引を使えば引きやすいかを見当つけられるようになることも大切である。見当をつけさせて引かせ、友達どうしでどの引き方がわかりやすかったのかを発表させると、さらに引き方に慣れさせることができる。 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) ○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。
1学期	6月	3 (話す聞く3)	必要なじょうほうを落とさないように聞こう メモの取り方のくふう 教科書:P54 ◇メモの取り方を工夫したり、質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。 ☆学習用語:聞き取りメモ／理由／ポスター／縦書き／横書き／箇条書き	話聞	1 〈見通しをもとう〉 1. メモを取った経験を振り返る。 * どのような目的でどのようにメモを取ってきたのか、自分の経験をもとに話し合わせる。 * 児童が話を聞く場面で工夫してきたことや、メモを取っていて困ったことなどを整理しながら話し合っていくといふ。 2. 工場長の前田さんの話をメモを取りながら聞く。 * 教師が音読し、聞かせるようにする。 (1)書いたメモを振り返り、よい点と課題が残る点を考える。 (2)書いたメモのよい点と課題が残る点について、考えたことを話し合う。 3. 次時の学習の見通しをもつ。 * これからよりよいメモの取り方を学ぶことを確認し、次時への学習意欲を高める。 2 〈話そう・聞こう〉 4. P55を読んで、東野さんたちのメモの取り方の工夫を見つける。 (1)メモの取り方の工夫について話し合う。 (2)自分に生かすことができるメモの取り方を考える。 5. 友達にインタビューをして、メモを取りながら聞いたことをまとめる。 6. メモの取り方について振り返る。 * インタビューをしながらメモを取ってみて、自分がわかったことや思ったこと、考えたことを伝えるようにさせる。 3 〈ふり返ろう〉 7. 東野さんたちのメモの工夫を踏まえて、さらによくするように考える。 8. 学習を振り返り、これからのメモの取り方について話し合う。 * 東野さんたちのメモの工夫を踏まえて、これからメモを取るときに、大切にしたいと思うことや実践してみたいことについて話し合わせる。 * 日常生活においても、大事なことを落とさないように工夫してメモを取りながら聞くことができるように意欲づける。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・積極的にメモの取り方を工夫したり、相手に質問したりしながら、学習課題にそって必要な情報について積極的に聞き、自分の考えをもとうとしている。

1学期	6月	10 (書く10)	三 伝わりやすい組み立てを考えて書こう リーフレットでほうこく 教科書:P58 ■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。 ★ここが大事:組み立てをくふうする ☆学習用語:課題／リーフレット／組み立て／資料／説明／効果的に伝える／読み返す／出典／引用／見出し	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 学習活動の見通しをもつ。 * 相手意識や、目的意識をしっかりともたせる。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。
					2・3 〈決めよう・集めよう〉 2. 課題を見つけ、伝えたいことを決める。 (1)自分が調べたい課題を見つける。 * 教師が教えるのではなく、児童が発見できるようにする。 * 学校図書館や各種資料をもとに取材活動を行う。 (2) 見学してきたことをもとに、伝えたいことを決める。 * 見学してさらに疑問に感じたことなども調べ、メモに書く。	
					4～6 〈組み立てよう〉 3. リーフレットの組み立てを考える。 (1)メモの中から取り上げたい項目を選ぶ。 (2)伝えたいことが明確になるような構成・配置を考える。 * 前時から使っていたメモを直接下書き用紙に貼り、構成を考えるとよい。 (3) グラフや図、写真などを整理したり、それぞれの項目と関連づけたりする。 * 引用資料やグラフ、出典を適切に用いるように指導する。	
					7・8 〈書こう〉 4. 「大事な言い方」を確認して、リーフレットを作る。 * 下書き用紙と見比べ、必要なことが抜けていないかを確認する。	
					9 〈読み返そう〉 5. 作ったリーフレットを読み返す。 * 見出しやイラストの工夫などについてもあわせて指導したい。	
					10 〈伝え合おう〉 6. 学級で読み合う。 * 伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか、意見を述べ合う。 〈ふり返ろう〉 7. 伝わりやすい組み立てにするために工夫したことを振り返る。	
1学期	6月	2 (書く2)	相手やもくぎに合わせて手紙を書こう いろいろな手紙 教科書:P64 ■手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。 ☆学習用語:後付け／始めの挨拶／季節の言葉／自己紹介／結びの挨拶	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 教材の学習の進め方を理解して見通しをもち、手紙を書くことに興味をもつ。 * 三上『自分の気持ちを手紙に』を想起させ、その学習との違いを明確にする。 2. 封書、はがき、電子メールのそれぞれの書式や目的の違いについて話し合う。 3. はがき、電子メールにおける手紙の構成を確認する。 (1)川上さんの手紙を読みながら、案内のはがきの構成を板書で確認する。 * P64の注記と対比しながら、構成を確認する。 (2)島崎さんの手紙を読みながら、依頼の電子メールの構成を板書で確認する。 * P65の注記と対比しながら、構成を確認する。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。((1)キ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。(B(2)イ) 【態度】 ・粘り強くまちがいを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、学習の見通しをもって、送る相手や伝える目的に合わせた手紙を書こうとしている。
					2 4. 誰にどのような案内やお願いをするのかを考えながら、手紙に書く事柄を決める。 * 社会科の学習や総合的な学習の時間の活動など、学級の実態に合わせて相手や依頼の目的を設定するとよい。 5. 構成を考えながら手紙を書き、まちがいがいないか読み直す。 * 季節の言葉は、児童が自分で考えてもよいし、「手紙の書き方」などの類書から、教師が児童の実態に合ったものを幾つか用意しておいてもよい。 * 時間があれば、お互いの手紙を読み合う。 〈ふり返ろう〉 6. はがきや電子メールの特徴を踏まえて、相手や目的に合った手紙を書くために、どのようなことに気をつけたか振り返る。	

1学期	6月	4 (書く1)	言葉の文化① 短歌の世界 教科書:P66 △短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 ☆学習用語:短歌	文化	1	1. P66・67を読んで、学習のめあてをつかむ。 * 短歌の音読をとおして、リズムよく読んだり情景を想像したりすることをおさえる。 2. 短歌の特徴を知る。 * P66の持統天皇の歌をもとに、音の数を確かめる。	【知識・技能】 ◎易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。((3)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・すすんで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。
					2・3	3. 解説文を読みながら、それぞれの短歌の情景や心情を想像して音読する。 * 写真などを手がかりにしながら、どんな情景や心情が描かれているのかを頭の中に思い浮かべさせる。 * 解説文と短歌を比べて読み、リズムや言葉の響きを感じ取らせる。 * 音読をとおして感じたことを自由に言わせてもよい。	
					4	4. 好きな短歌を選んで、視写したり感想を書いたりする。 * リズムを意識しながら、何度も声に出して読ませる。 * 気に入った短歌を選んでワークシートやノートに書く。 * グループで感想などを交流し、さらにイメージを広げたり新たな感想をもったりする。	
1学期	7月	2	漢字の広場② 漢字の音を表す部分 教科書:P72 △形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 ☆学習用語:音／部首／音訓索引	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「持・時」「飯・板」に共通している部分がそれぞれ何を表しているか考える。 * 全ての漢字に「音を表す部分」があるわけではない。ここでは、漢字の中には「音を表す部分」をもつものがあることに着目できるとよい。 3. 例示する漢字の部首と音を表す部分が、それぞれ、「へん」や「つくり」など構成要素のどの位置にあるかを確かめ、話し合う。 * 部首と同様に、音を表す部分が、偏旁冠脚のさまざまな位置にあることを確認する。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・すすんで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題にそって、「音を表す部分」を、漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。
					2	4. P73の上段の設問を解き、学習への関心を深める。 * 提示の文を各自で音読する。 5. 漢字辞典の音訓索引を使い、音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し、ノートにまとめ、発表し合う。 * 調べた漢字を使う熟語を集めたり、短文を作ったりするとよい。 6. 音を表す部分の中には、文字によって音が違うものがあることを知る。 * 「主・住・注・柱」など、例示の漢字を使う熟語を探したり、短文を作ったりして、それぞれの読み方を声に出して確かめるとよい。	
1学期	7月	1 (書く1)	都道府県名に用いる漢字 教科書:P74 △都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。 ☆学習用語:都道府県	漢字	3	7. 都道府県名に用いる漢字について学ぶ。 * 社会科における都道府県の名称と位置についての学習と関連づけて指導する。また、指導する時期や内容についても、意図的・計画的に位置づけるようにする。 8. 都道府県名を使って文を作り、発表し合う。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題にそって、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。
1学期	7月	2 (書く2)	三年生で学んだ漢字② 教科書:P76 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	4・5	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 10. 三年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 * 描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 * 自分が書こうとしていることが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 11. 書いた文を見直し、適切な表現にかえたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 12. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で担当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で担当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

1学期	7月	10 (話す聞く2)	四 落語を声に出して楽しもう 落語 ぞろぞろ 教科書:P78 □落語を読んで見つけたおもしろさが伝わるように、音読したり演じたりして楽しむ。 ★ここが大事:読み方をくふうする ☆学習用語:噺家／落語／落語家／話芸／聞き手／繰り返し／せりふ／言葉づかい／音読記号／間／話し手／話し言葉	読む	1 〈見通しをもとう〉 1. 学習の見通しをもつ。 (1)単元扉とP78を読み、伝統芸能「落語」について知る。 (2)『落語 ぞろぞろ』の音声を聴いたり、映像を見たりして、友達と感想を伝え合う。 2 〈たしかめよう〉 2. 話の全体をつかむ。 (1)落語の特徴の一つである「繰り返し」に着目する。 (2)場面の様子や登場人物のやりとりを想像して読む。 3～5 〈くわしくよう〉 3. 場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、おもしろいところを見つける。 (1)茶店のじいさんの「お稲荷さんのご利益」に対する考え方は、落語のはじめと終わりでどのように変わったかを考える。 (2)茶店のじいさんのせりふと、床屋の親方のせりふを手がかりに、二人がそれぞれどのような様子や気持ちなのかを想像する。 6・7 〈まとめよう〉 4. おもしろいと思ったところについて、なぜそう思ったのか、自分なりの理由を考える。 ＊ 落ち、言葉の繰り返し、話の構成、話し方など、おもしろいと思った理由を具体的に示せるようにする。 8・9 〈つたえあおう〉 5. 見つけたおもしろいところが伝わるように、音読したり落語のように演じたりする。 (1)P93の音読記号の例を確認し、読むときの気持ちを書き込んだ音読台本などを作って、音読したり演じたりする。 (2)友達が工夫しているところを見つけ、感想を伝え合う。 10 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ) ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C1)イ) ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C1)オ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ) 【態度】 ・すすんで場面の様子や登場人物の気持ちを具体的に想像して読み、おもしろいと思ったところを伝え合い、今までの学習を生かして落語を音読したり演じたりして楽しもうとしている。
1学期	7月	1	読書の広場② ひろがる読書の世界 教科書:P96 △「本について語り合う」、「同じ作者の本を読む」という学習活動を通して、幅広く読書に親しむ。	読書	1 1. 読書生活を振り返り、読みたい本を選んだり、これからの読書生活を考えたりする。 (1)読書生活を振り返る。 ＊ 四年生になってから読んだ本について、冊数や本のジャンルに目を向けさせ、自分の読書傾向を把握させる。 ＊ 心に残っている本について、作者や簡単なあらすじ、心に残った理由を発表し合い、友達の読んでいる本にも興味をもたせる。 (2)読んでみたい本を選ぶ。 ＊ 学校図書館と連携し、掲載図書の実物や他のおすすめの本を用意する。教科書P148～151も活用できる。 ＊ 本の選び方として、気に入った本と同じ作者や筆者の本を探したり、テーマを決めて探したりする方法があることを紹介する。 (3)読んでみたい本を発表する。 ＊ 選んだ理由もあわせて発表させる。 (4)夏休み中の読書について目標をもつ。 ＊ 冊数やページ数、読書時間などの目標を立てる。「読書りれき」を紹介し、取り組むことを勧める。	【知識・技能】 ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ) 【態度】 ・すすんで読書生活を振り返り、読みたい本を選んだり、これからの読書生活を考えたりしようとしている。
2学期	9月	6 (話す聞く6)	五 話の組み立てをを考えて発表しよう 写真から読み取る 教科書:P98 ◇伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。 ★ここが大事:写真から読み取ったことを話す	話聞	1・2 〈見通しをもとう〉 1. 単元名やリード文を読み、話の組み立てをを考えて発表するというめあてについて確認し、学習計画を立てる。 〈決めよう・集めよう〉 2. 話すための写真を選ぶ。 ＊ P98・99の四枚の写真を見て、写っているもの、写真の撮り方の特徴を話し合って整理させる。 3 〈組み立てよう〉 3. 読み取ったことを整理し、組み立てを考える。 (1)P100を参考に読み取れることをメモにまとめ、組み立てを考える。 ・写真を見て気づいたことや想像したことをメモにまとめる。 ・メモをもとに、話す構成を考える。 ・北原さんの発表を参考にして、話す練習をする。 ・グループで聞き合い、感想や意見を交流する。 4～6 〈話そう・聞こう〉 4. 発表する。 (1)メモをもとに写真を見せながら発表する。 ＊ 教科書の写真を使って発表するだけでなく、自分で撮影した写真や、探してきた写真をもとにして話す活動も取り入れる。その際も同様の流れを踏まえる。 ・写真を決める。 ・写真から読み取ったことをメモにまとめる。 ・メモをもとに話す構成を考える。 ・発表し合う。 〈伝え合おう〉 5. 自分や友達の発表を振り返り、感想を伝え合う。 ＊ 写真のどの部分からそう考えたのか、相手にわかるように発表することができたか、人によっていろいろな見方や考え方があったことがわかったかどうか確かめる。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A1)イ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア) 【態度】 ・粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え、学習の見通しをもって、写真から読み取ったことを話そうとしている。

2学期	9月	5 (書く5)	六 集めたざいりょうでわかりやすく伝えよう 作ろう学級新聞 教科書:P102 ■割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。 ★ここが大事:新聞で伝える ☆学習用語:新聞／見出し／題名／発行日／発行者／トップ記事／割り付け／清書／下書き／読み返す	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 新聞の作り方を読んで作り方の流れを知り、学習の見通しをもつ。 * 教科書の新聞例から、どんな工夫をしているか話し合う。 * 新聞をとっていない家庭もあるので学校で準備するとよい。 (2)教科書の新聞の作り方を読んで、活動の流れを確認する。 * 割り付け、トップ記事、題名、見出しなど、新聞を書くうえで必要な事項を確認する。 * 情報の重要度によって、記事の大きさや位置を工夫していることを確認する。 * 写真や図表の効果について確認する。 〈決めよう・集めよう〉 2. 知らせたいことを決め、調べる。 * 誰がどの記事を書くかの分担を決めさせる。 3. 記事を書くために取材をする。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・粘り強くまちがいを正したり文章を整えたりし、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。
2学期	9月	2	漢字の広場③ 送りがなのつけ方 教科書:P106 △送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 ☆学習用語:送り仮名	漢字	1 1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 * 三上『送りがな』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 2. 言い方によって形が変わる言葉の送り仮名を考える。 * 「ふつうの言い方」「ていねいな言い方」「動作を打ち消す言い方」「動作がすんだことを表す言い方」などの観点をもとに、送り仮名の違いを考える。 3. 送り仮名に着目し、常体を敬体に、肯定を否定に、現在形を過去形に変えてみて、話し合う。 2 4. 例文を常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などにそれぞれ書きかえ、送り仮名を確認する。 * 常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などの別に基づく動詞の語形変化の法則性を経験的に理解できるようにする。 5. 動詞として使われる漢字のうち、訓読みが複数あるものを取り上げて、送り仮名に気をつけて、文を作る。 6. 動詞として使われる漢字を集め、活用によって送り仮名がどう変わるかを調べ、発表する。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。((1)ウ) 【態度】 ・すすんで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字を正しく使おうとしている。
2学期	9月	2 (書く2)	三年生で学んだ漢字③ 教科書:P108 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4 7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 三年生までに学んだ漢字を使って、友達のよいところを書く。 * 自分が書こうとしていることが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 * 条件をつけて文や文章を書くように促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 9. 表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表し合う。 * 敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 10. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くとしている。

2学期	10月	9 (書く2)	七 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう 一つの花 教科書:P110 □場面の様子を比べて読み、感想を伝え合う。 ★ここが大事: 文章中の大切な言葉について考える ☆学習用語: 物語／場面／感想文／題名／比べる／登場人物／あらすじ／戦争の時代を表す言葉・文	読む	1・2	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 * 場面の様子を比べながら人物の思いを想像して読み、物語の感想文を書くという単元の見通しをもたせる。 〈たしかめよう〉 2. 場面の様子を大きく捉え、物語の全体像をつかむ。 (1)「一つの花」という題名から、どのようなことを想像したか、友達と話し合う。 * 既に本文を読んでいて、内容を知っている児童が多い場合は、「一つ」という言葉を意識化させて、その印象を話し合わせてもよい。 (2)この物語がどのようなお話なのか、次のことに注意しながら、確かめる。 ・どのような人物が出てくる物語か。(登場人物) ・いつの時代の物語か。(時代背景) ・どのようなできごとが起きたか。(あらすじ) (3)初発の感想をまとめる。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					3～6	〈くわしくよう〉 3. 戦争中と十年後の場面を比べながら、ゆみ子の様子や、お父さんとお母さんの思いを読み、文章中に繰り返し出てくる「一つ」という言葉の意味を考え、話し合う。 (1)戦争中と十年後の場面を、次のような観点で比べて、表などに整理し、考えたことを話し合う。 ・お父さんとお母さん ・ゆみ子 ・ゆみ子の家 ・その他(食べ物など) * 教科書に示されている観点の他に、子どもたちから出てきた観点も適宜取り上げる。 * 「ゆみ子のしたこと」や「お父さん・お母さんのしたこと」は、本文中から具体的に(要約して)引用する。 (2)題名「一つの花」と文章中に繰り返し出てくる「一つ」という言葉が、それぞれどのような意味で使われているのか考え、話し合う。 * 思いつきや感想ではなく、前時までの学習を踏まえて、根拠をはっきりさせながら考えを発表させ合う。 * 戦争中の場面では「一つ」「一つだけ～」などの言葉が頻出している。一方、十年後の場面では、「一つ」という言葉は出てこず、「いっぱい」「お話しているかよう～」 「お肉とお魚と、どっち～」となっている。「戦争中」と「戦後」を比べることを通して、「一つ」の意味を考える。 * 「願いや気持ち」は、はっきりした記述がない。本文から離れすぎてはいけないが、読み手の推測が入った記述になってもよいこととする。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					7・8	〈まとめよう〉 4. 題名「一つの花」と、文章中に出てくる「一つ」という言葉の意味について考えたことがわかるように、心に残った場面やできごとをはっきりさせて、物語の感想文を書く。 * P121に感想文の書き方の例がある。内容を一・二点にしぼり、特に心に残った場面やできごとについて書くようにする。 * 「ここが大事」を確認し、題名や文章中で繰り返し出てくる言葉に着目して作品にこめられたメッセージや作者の思いについて考え、自分の感想や考えがわかるように書かせるようにする。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					9	〈つたえあおう〉 5. 書いた感想文を友達と読み合う。 〈ふり返ろう〉 6. 学習を振り返る。 (1)くわしく読む前と読んだあとで、物語に対する感じ方がどのように変わったか振り返る。 (2)感想文を書くときに気をつけたことはどんなことか振り返る。 * 伝える相手は友達である。互いに物語の内容を知っているという前提で、自分の思いや考えがわかるように書くことが大切であると意識させたい。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
2学期	10月	2	言葉の広場② 修飾語 教科書:P124 △文の中での修飾語のはたらきを理解する。 ☆学習用語: 修飾語／主語／述語	言語	1	1. 修飾語が異なることで文意が異なることに気づく。 * P124上段を読んだうえで文意の違いを考えさせ、児童に発表させたあとに、P124下段を読ませて「大きい」「大きく」のはたらきを確認させる。 2. 修飾語とは何か、どのようなはたらきの言葉が理解する。 * 問いに答えさせたり、P124・125の文の組み立て図を参照させたりしながら、文を組み立てる言葉とはたらきを確認する。 * P125上段を参照させながら、修飾語とは何か、どのようなはたらきの言葉か確認する。 * まず主語と述語を確認し、そのうえで残りの修飾語がどの言葉を詳しくしているか確認する形で、文の組み立てを板書する。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、修飾語を見つけたり、修飾語の種類を見分けたりしようとしている。
					2	3. 設問1に取り組み、文中から修飾語を指摘したり、文の組み立てを図で表したりする。 * 修飾語を見つけやすくするために、問題文を文節に区切って提示するが、「立っていた」はひとまとまりにする。 * 文の組み立てを図に示す際には、まず主語と述語を記入し、そのうえで修飾語を書き加える。 * 児童個人では課題に取り組むのは難しいので、一つめの文は教師の指示に従って図を書かせ、二つめの文は児童個人に書かせるとよい。 4. 設問2に取り組み、修飾語を加えて、様子のわかる文にする。 * ()に入る修飾語はできるだけ多くあげさせる。 * もとの文と修飾語を加えた文を比べさせ、修飾語が加わると、様子がわかる文になることに気づかせる。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見通しをもって、修飾語を見つけたり、修飾語の種類を見分けたりしようとしている。

2学期	10月	6 (書く6)	ハ 自由に想像を広げて書こう 作ろう！「ショートショート」 教科書：P126 ■不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。 ★ここが大事：不思議な物語を作る ☆学習用語：ショートショート／物語／中心人物／登場人物／場面／始め／中／終わり	書く	1	〈見通しをもとう〉 1. 教科書を読んで活動の流れを知り、学習の見通しをもつ。 * 学習の流れを知り、単元のゴールを明確にする。児童に「書きたい」という気持ちが生まれるよう言葉をかける。 * 巻末付録『レモン自転車』を読み、「ショートショート」とはどんなお話かどんなおもしろさがあるかを確認する。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)
		2	〈決めよう・集めよう〉 2. 組み合わせを工夫して不思議な言葉を作り、想像を広げる。 (1)いろいろなものの名前などを十個探して書く。 * まずは思いつく名詞を十個ワークシートに書かせる。書く名詞に関連性や規則性をもたせる必要はない。自由に楽しんで書かせたい。 (2)言葉の一つを選び、その言葉から思いつくことを自由に書く。 * 名詞の中から一つ選び、思いつくことを自由に書く。こちらも書く言葉に制限などは設けず、自由な発想を大事にして書かせたい。 (3)選んだ一つ以外の言葉を組み合わせ、不思議な言葉を作る。 * 不思議な言葉が完成したら、そのものの絵を描かせて、さらに想像を膨らませるとよい。 (4)不思議な言葉から想像を広げる。 * 一人で考えるのではなく、二人組やグループでの活動を学級の実態に応じて取り入れる。友達の意見を聞くことで、発想がさらに広がることも期待できる。 * ワークシートに欄はないが、「よいこと」「悪いこと」以外に思いついたことも書かせてもよい。		【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。		
		3	〈組み立てよう〉 3. 設定や物語の展開を考える。 * ワークシートにそって「中心人物」「登場人物」「いつ」「どこで」「どんなことが」など、場面設定や展開を考えさせる。これまで学習してきた教科書教材を教師が例として板書してもよい。 * ワークシートの設問「それから？」にそって展開を考えさせる。また、前時のワークシートを見直ししながら、結末を決める。友達とヒントを出し合いながら考えさせてもよい。				
		4	〈書こう〉 4. 想像を広げながら、「ショートショート」を書く。 * 話のまとまりを意識させる。 * 文章量は学級の実態によるが、「ショートショート」であるということを踏まえ、400字から800字程度にしたい。学級の様子や児童の実態に合わせて、字数は増減させる。 * 時間があれば、挿絵を描かせてもよい。				
		5	〈読み返そう〉 5. 読み返す。 * 場面ごとに段落を変えるなど、段落を意識させる。 * 場面の様子や会話文、心の声を書きたすように促す。				
		6	〈伝え合おう〉 6. 友達と読み合い、感想を伝え合う。 * 交流し、友達の作品の内容面・記述面、両方で感想を言わせる。 * コメントカード、本の帯などを学級の様子に合わせて活用して、交流させる。 * 交流の観点(不思議な言葉のアイデアや結末のおもしろさ・会話文や登場人物の心情の表現など)を決めて交流させるとよい。 * 例えば、完成作品は、二週間程度学校図書館に置き、異学年の児童が読めるようにする。その際、感想カードを記入してもらうようにすることで児童の意欲も向上する。 〈ふり返ろう〉 7. 想像を広げるために、どんなところを工夫したか振り返る。 * 振り返りでは「何を学んだのか」「どこを工夫すると、よりよい作品ができたのか」などについて、学習過程を振り返られるようにする。				
2学期	10月	1	言葉の文化② 「月」のつく言葉 教科書：P132 △昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関係する言葉を集める。 ☆学習用語：月のつく言葉／国語辞典／漢字	文化	1	1. 教材文を読み、「月」の呼称について知る。 * 教科書の写真や理科図鑑などを活用して、さまざまな「月」の呼称について知らせる。 2. 教材文末の言葉について国語辞典などを調べたり、さらに「月」に関わるさまざまな言葉や行事、ことわざなどについて調べたことをタブレット端末にまとめたりして、友達と交流する。 * 辞典を利用して調べる方法を身につけさせる。また、その結果を互いに交流させる。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。((3)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・すすんで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関係する言葉を集めようとしている。

2学期	10月	1 (話聞1)	ひろがる言葉 つながる ひろがる 教科書:P134 ■上巻の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	話聞	1	1. 半年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 * 上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。挿絵やふきだし、『四年生で学ぶこと』を参照する。楽しかったことを中心に思い出させたい。 * 心に残っている単元や教材、学習活動、また、心に残っている言葉などを具体的に書き、発表し合う。 * 友達の発表を聞き、学んできたことを共有できるようにする。 2. 1で出し合ったことが、他の教科や生活の中で、どんなことに生かしているか考える。 * 国語の学習がさまざまな生活の場面で生かされることに気づけるようにする。 3. 下巻ではどんなことを学習するのか、想像したことや期待することなどを自由に発表し合う。	【知識・技能】 ○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・すすんで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、上巻の教科書での国語の学習を振り返ったり下巻の教科書での国語の学習への希望を話し合ったりしようとしている。
2学期	10月	8 (書く2)	一 登場人物の気持ちの変化を考えて、日記を書こう ごんぎつね 教科書:P8 □登場人物「ごん」の気持ちを詳しく想像して読み、気持ちの変化がわかるように「ごん日記」を書く。 ★ここが大事:情景を読む ☆学習用語:物語／気持ち／場面／始め／日記／題名／言葉／説明する／登場人物／中心人物／情景／情景描写／二つの言葉が組み合わさってきた言葉	読む	1 2・3 4・5 6 7・8	〈見通しをもとう〉 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 〈たしかめよう〉 2. ごんと兵十はそれぞれどんな人物か読み取る。 * 1の場面から叙述をもとに読み取らせる。 3. ごんと兵十の関係の変化を読み取る。 * 1・2場面と6場面を比べて読み取らせる。 〈くわしくよう〉 4. ごんの気持ちがわかる表現をノートに書き出し、気持ちの移り変わりを話し合う。 * 情景描写を登場人物の気持ちに重ねることで、その気持ちがより具体的に想像できることもあることをおさえる。 5. 兵十が、ごんに対してどのような気持ちでいるのかをまとめ、ごんと兵十の心のつながりについて考える。 * 前時までに学習したごんの気持ちの移り変わりを兵十の気持ちの変化に重ねて考えさせる。 * あらためて具体的な叙述を確認しながら、両者の関係の変化が目に見えるように板書などで示していくようにする。 〈まとめよう〉 6. ごん日記を書く。 * ごんの気持ちのわかる言葉を手がかりにして書かせる。 〈つたえあおう〉 7. ごん日記を読み合い、感想を伝え合う。 〈ふり返ろう〉 8. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) 【態度】 ・積極的に登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考えながら読み、根拠をはっきりさせて考えたことを伝え合おうとしている。
2学期	11月	5	読書の広場③ 「読書発表会」をしよう 教科書:P30 △紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」を行い、読書の幅を広げる。 ☆学習用語:組み立て／ブックトーク／物語／記録／題名／あらすじ／読書発表会	読書	1・2 3 4・5	1. 「読書発表会」での本の紹介の仕方を知り、テーマにそった本を集める。 (1)「読書発表会」への見通しをもつ。 * テーマにそって、三冊程度の本を紹介することを知らせる。 (2)テーマにそった本を集める。 * 物語に限らず、さまざまなジャンルから幅広く本を選ばせる。分類記号を意識させるとよい。 2. 紹介する本を決め、聞き手に興味をもってもらえるような発表内容を考える。 (1)紹介する本を選び、順番を決める。 (2)発表のタイトルを考える。 (3)発表内容を考え、組み立てメモを作る。 * 「組み立てメモ」を参考に、それぞれの本に合った発表の仕方、聞いている人が読みたくなるような発表を考えさせる。 (4)発表の練習をする。 3. 「読書発表会」で、本を紹介し合う。 (1)「読書発表会」で、本を紹介し合う。 * 発表者には、聞き手を意識した語りかけができるようにさせる。 * 聞き手には、友達の発表を聞きながら、読みたくなった本や工夫していたところ、感想などをメモさせる。 (2)「読書発表会」の感想や読みたくなった本を発表する。 * 今後の読書につながるよう、児童が発表した本を一覧にして配付するとよい。	【知識・技能】 ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ) ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・すすんで、文章を読んで感じたことや考えたことをまとめ、「読書発表会」で本を紹介しようとしている。

2学期	11月	4 (話す聞く1)	言葉の広場③ 言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ 教科書:P34 △言葉や音が表すイメージや、イメージに即した言葉を考えたりすることによって、言葉の特性について考える。	言語	1 2	1. 犬の名前をもとに、言葉から受けるイメージについて話し合う。 * 教科書P34で、男の子が「わあ。」と驚いた理由について話し合う。また、「チロ」という言葉から受けるイメージについて考える。 2. 身近な物の名前について話し合うことをとおして、学習の見通しをもつ。 * ペットやお菓子など、身近な物の名前について、その由来や聞いた時に受けるイメージについて話し合わせる。 * 言葉や音が表す感じや言葉から受ける感じについて考えることをとおして、言葉の特性について理解するという学習の見通しをもたせる。 * 言葉から受けるイメージが、誰でも共通のことなのかどうかなどについて確かめる。 3. 三つの例における二人のやり取りについて、それぞれがどのように感じたのかを考え、話し合う。 * P35の三つの例から、擬声(音)語や擬態語をもとに、音とイメージの関係について考える。 * 擬声(音)語と擬態語、清音と濁音・半濁音によってどのような感じ方の違いがあるかを確かめる。 4. P36「ガンガリゴン」と「ヘンヘリホン」とを比較して、どちらが強そうか考える。 * 濁音と清音とで受けるイメージの違いを明確にする。 5. 「重そうな怪獣」「素早そうな怪獣」「小さくて可愛らしい怪獣」という視点で、怪獣の名前を考える。 * 言葉(音声)と感覚の結びつきに気づけるようにする。 6. 「パロッピー」と「マラルミー」という名前のおかしは、どんな形や味、大きさでどのような食感がすると思うか話し合う。 * 形や大きさ・色・硬さなど、具体的に想定することで、自由に発想できるようにする。 7. P37「ふわふわ」「さくさく」「ごつごつ」の特徴が伝わるようなお菓子の名前を考えて、友達との間で意味が共有できるかどうか確かめる。 * それぞれのお菓子の性質や特徴を全体で確認したうえで活動する。 8. 既にある言葉を使ったり、言葉から受ける感じを生かして新しい表現を作ったりすることで、自分の気持ちやイメージを相手に伝えることができることを確認する。 * 意味や気持ちを伝えられる言葉とそうでないものについて考え、言葉の特性について理解する。 * 自分で考えたイメージを表す名前が、他者に通じるものか、どうしたら通じるようになるのかを考えさせる。 9. 学習を振り返る。 * 言葉の性質やおもしろさ、他者とイメージを共有させることのおもしろさ、また共有できないときの難しさなどを意識できるようにする。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A(1)イ) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・すすんで、言葉には考えたことや思ったことを表すはたらきがあることに気づこうとし、学習課題にそって、考えを伝えようとしている。
2学期	11月	8 (話す聞く8)	二 役わりに気をつけて話し合おう みんなが楽しめる新スポーツ 教科書:P38 ◇司会や発言者などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えを伝え合って話し合う。 ★ここが大事:役わりに気をつけて話し合う ☆学習用語:役割／司会／記録係／質問／意見／課題／発言者／提案者／話し合い／メモ／賛成／共通点／反対／説明／理由	話聞	1 2 3 4・5 6・7 8	〈見通しをもとう〉 1. 単元名やリード文を読み、役割を決めたり、進行に従って話したりする方法について話し合い、学習の見通しをもつ。 (1)これまでにどんなことを話し合ったか振り返る。 (2)これまでのクラスの話し合いの仕方や結果等のよかった点や問題点を振り返る。 〈決めよう・集めよう〉 2. 誰とどんな新スポーツをやりたいかを考える。 (1)クラスで話し合う新スポーツについて決める。 〈組み立てよう〉 3. 役割を決め、進行について打ち合わせをする。 (1)それぞれの役割が何をするのか確認する。 * 時間配分を確認し、教科書の「進行」と「話し合い例」をもとに、自分たちのクラス用の簡単な台本を作成する。 * 台本をもとに班でロールプレイを行う。 〈話そう・聞こう〉 4. 役割に気をつけて、クラスで話し合う。 (1)教科書を読み、P40～42の話し合い例をもとに学習の流れをつかむ。 (2)新スポーツを決める話し合い(1回め)を行う。 5. 話し合いを振り返る。 (1)P40～42の話し合い例をもう一度読み、どこがよいのか発表し、役割ごとの留意点を確認する。 (2)話し合い(2回め)を行い、振り返りをして、次の準備を行う。 (3)話し合い(3回め)を行い、振り返りをする。 〈伝え合おう〉 (4)自分たちの話し合いについて、気になる点に注意できたか、友達の意見と自分の意見をつないだり比べたりして話し合えたか、ノートに書いて発表し合う。 〈ふり返ろう〉 6. 今後のクラスでの話し合いについて考える。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。

2学期	11月	2	漢字の広場④ いろいろな意味を表す漢字 教科書:P44 △一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「手」という漢字がもつ複数の意味について考える。 3. 「手」の五つの意味別に、語句を集め、話し合う。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。
					2	4. 選択肢のそれぞれの言葉の意味を考え、「本」「原」「名」という漢字がもつ複数の意味と比べる。 5. 漢字辞典を使って、「長」「家」「札」「親」「運」がもつ複数の意味を調べる。 6. 漢字辞典を使って、これまでに学習した漢字がもつ複数の意味を整理し、意味別に熟語を集め、ノートにまとめる。	
2学期	11月	2 (書く2)	三年生で学んだ漢字④ 教科書:P46 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 三年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 9. 作った文を互いに発表し合う。 10. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ) 【言語活動例】 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くとしている。
2学期	12月	9 (書く2)	三 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう ウミガメの命をつなぐ 教科書:P48 □ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列にそって読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。 ★ここが大事:要約する ☆学習用語:要約／事例	読む	1	〈見通しをもとう〉 1. 題名や単元扉の二枚の写真を手がかりに、学習の見通しをもつ。 (1)ウミガメについて知っていることを話し合う。 (2)単元名を読み、要約するとはどんなことか、大事な言葉や文に気をつけて要約するにはどうしたらよいかについて考え、発表する。 (3)二枚の写真や誘いの文から、文章の内容を予想する。 (4)本文を読み、大事の言葉や文を確認する。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) ◎「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで本文を読んで自分が興味をもった部分を要約し、学習課題にそって、本文をわかりやすく紹介する文章を書こうとしている。
					2	〈たしかめよう〉 2. 本文を読んで興味をもったことについてまとめ、友達と話し合う。 (1)『ウミガメの命をつなぐ』を読んで興味をもったことについて、感想にまとめる。 (2)書いてまとめた感想について、友達と話し合う。 (3)自分の文章で、書き足したり書き直したりしたいところがないか、見直す。	
					3～6	3. ウミガメの現状や、名古屋港水族館の取り組みの概要について読み取る。 (1)「ウミガメのさんらん研究」について読み取る。 (2)「子ガメを海に放流する研究」について読み取る。 (3)2011年からの水族館の取り組みについて読み取る。 (4)全体で表を確認し、振り返る。	
					7	〈くわしくよう〉 4. 興味をもったことを中心に、百～二百字くらいに要約する。 (1)前時までのワークシートを確認し、自分が興味をもったところを選ぶ。 (2)興味をもったところを中心に、百字～二百字くらいに要約する。	
					8	〈まとめよう〉 5. 要約した文章も用いて、「ウミガメの命をつなぐ」を紹介する文章を書く。 (1)要約した文を友達と読み合う。 (2)要約した文章を使って、『ウミガメの命をつなぐ』を紹介する文章を書く。 ＊ 構成は、教科書P57の例を参考にするとよい。	
					9	〈つたえあおう〉 6. 紹介文を友達と読み合い、友達の文章と自分の文章を比べて、自分との違いやいいところを見つけて伝え合う。 (1)紹介文を友達と読み合う。 (2)読み合って感じた、友達の文章と自分の文章の違いや、友達の文章のよいところを発表する。 〈ふりかえろう〉 7. 学習全体を振り返って、文章を要約するときのポイントや紹介文を書くときに大事なことをノートに書いてまとめる。	

2学期	12月	2	言葉の広場④ 二つのことがらをつなぐ言葉 教科書:P60 △二つの事柄をつなぐとき、使う言葉によって内容が大きく変わること理解し、接続語のはたらきを意識して、正しく使い分ける。 ☆学習用語:ことがら	言語	1 1. 冒頭の問いをとおして、二つの事柄をつなぐ言葉について興味をもつ。 * 接続助詞が違うことでどのように文意が違ってくるか考えさせる。 2. 教科書を読み、二つの事柄をつなぐ言葉(接続詞や接続助詞)のはたらきを理解する。 * 接続助詞によるつなぎ方の違いで、文意がどのように違ってくるか理解させる。 3. 設問1に取り組み、接続助詞と接続詞の対応を考えながら、一文を二文に分ける。 * 接続助詞が表す意味を考えさせながら、対応する接続詞を選ばせる。 * 一文を二文に分ける際、接続詞が適切な位置にきているか、各文の文末が言い切りの形になっているか確認させる。 2 4. 設問2に取り組み、つなぐ言葉に注意しながら二文を一文にする。 * 接続助詞に対応する接続詞を考え、接続詞の位置、文末の形に気をつけながら文を作成させる。 5. 設問3に取り組み、接続助詞の意味を考えながら、あとに続く文を考える。 * 作成した文は発表させるなどして、不自然な点がないか確認するとともに、いくつか文が作れることに気づかせる。 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで接続する語句の役割について理解し、学習の見通しをもって、接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。
2学期	12月	6 (書く6)	四 調べたことをわかりやすく書こう クラスの「不思議ずかん」を作ろう 教科書:P62 ■図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。 ★ここが大事:わかりやすく書く ☆学習用語:取材／組み立て／原稿／説明／読み返す／題名／資料／目次／言葉づかい／情報／著作権／メディア／新聞／インターネット／引用／意見／出典	書く	1 〈見通しをもとう〉 1. 教科書P64・65の作品例や、学習の進め方を読んで学習課題を知り、活動の見通しをもつ。 2 〈きめよう・集めよう〉 2. 図鑑にのせるものを決め、調べる。 (1)身のまわりの不思議を集め、書きたいことを選ぶ。 (2)題材について取材する。 * 気づいたことや疑問に思ったことをメモしたり、もっと詳しく知りたくなったことを図書館で調べたりするよう指導する。 * 必要に応じて、デジタル機器(パソコン・タブレット端末・デジタルカメラ等)も活用させる。 * P67「じょうほうを集めて活用しよう」を参考に、目的に合った調べ方を学ばせたい。 3 〈組み立てよう〉 3. 組み立て表を作り、グループで話し合う。 * できた組み立て表を友達と読み合いながら、書き手の目的や意図、伝えたい内容と表現の关系到意して、わかりやすく伝えられているか意見を述べ合う場を設定する。 4 〈書こう〉 4. 図鑑の原稿を書く。 * 必要に応じて図や写真などの資料を入れたり、資料と関連する表現を書かせたりする。 5 〈読み返そう〉 5. 原稿を読み返す。 * 読む人が興味をもって読めるような内容になっているか、伝えたいことがわかりやすく伝わるような表現になっているかどうか、などの観点で交流させる。 6 〈伝え合おう〉 6. グループで発表し合う。 * 読む人が興味をもって読めるような内容になっているか、伝えたいことがわかりやすく伝わるような表現になっているかどうか、などの観点で交流させる。 * 表紙、目次などをつけて一冊の本の形にする。 〈ふり返ろう〉 7. 学習を振り返る。 * 学習のねらいに照らし合わせて、どのような学習ができたのかを振り返らせる。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)オ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。
2学期	12月	4 (書く1)	言葉の文化③ 故事成語 教科書:P68 △故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。 ☆学習用語:故事成語	文化	1 1. 故事成語を知り、日常生活と結びつける。 * 「五十歩百歩」を読んで、意味と成り立ちがあるという故事成語の特徴をおさえる。 * 「五十歩百歩」「漁夫の利」「蛇足」「矛盾」にあてはまるような日常生活の場面を想起し、故事成語がどのようにに生活の中で使われてきたのかを考えさせる。 2 2. P73に例示されている故事成語について、辞典を使って意味と成り立ちを調べる。 * 故事成語を使った簡単な文を書かせる。 * 辞典や故事成語について書かれた書物を使って調べ、ノートにまとめさせる。 3・4 3. 自分の心が動くような故事成語を集めて、もとになった故事や意味を、辞典を使って調べ、カードに書き、友達と互いに交流する。 * 使いやすい大きさのカードを用意しておくとい。カードを交換して、友達どうして読み合うようにする。 * カードがわかりやすく簡潔になっているかどうか、確かめさせる。 4. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。((3)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。

3学期	1月	1	詩を読もう いろいろな詩／おおきな木 教科書:P74 □さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。	読む	1	1. 『いろいろな詩』を読み、感じたことを発表し合う。 * 題名と詩とのイメージのつながりを話し合う。 2. それぞれの詩の題名から、どのようなことを思い浮かべるかを考える。 * 題名から思い浮かぶ、自分なりのイメージを一行程度の言葉で表す「一行詩」や「短詩」を作る。 * B5の画用紙を用意して、自分が作った一行詩を書かせる。時間があれば、題名を隠して「詩の題名あてクイズ」を行うとよい。 3. 『おおきな木』を音読し、気づいたことを発表する。 * 気がついたことや思ったことなど、自由に発表し合うように促す。 * 「おおきなって」や「ようけ」などの言葉に気をつけて、内容を理解させる。 4. 詩に見られる表現の工夫について、グループで話し合って、考える。 * 表記の工夫や視覚的な効果についてふれるとよい。特に、作品全体が木の形になっていることの効果については、話し合うようにする。 5. グループで話し合ったことを発表する。	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(C1)ク 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって発表し合おうとしている。
3学期	1月	2	漢字の広場⑤ 熟語のでき方 教科書:P78 △二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 ☆学習用語: 熟語	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「高温」「寒冷」「苦楽」という言葉にある二つの漢字の意味のつながりを考え、「熟語」の定義を知り、熟語の構成について理解する。 3. 「良薬」を例に「上の漢字が下の漢字を修飾する熟語」について考え、「お祝いの日」「清らかな流れ」という意味を表す熟語について話し合う。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(C1)エ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。
					2	4. 「関係のある意味の漢字がならぶ熟語」のうち、「思考」のような「[に]た意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめたりする。 5. 「前後」のような「反対の意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめたりする。 6. 漢字辞典等を使い、集めた熟語の意味を調べる。	
3学期	1月	2 (書く2)	三年生で学んだ漢字⑤ 教科書:P80 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 8. 三年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 10. 学習したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(C1)エ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。

3学期	1月	6 (書く1)	五 自分の経験と結びつけて考えたことを伝え合おう くらしを便利にするために 教科書:P82 □「便利」とはということかを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 ★ここが大事:経験と結びつけて読む ☆学習用語:引用／具体例	読む	1 〈見通しをもとう〉 1. 身のまわりにある便利なものについて考える。 (1)自分が便利と思うものをあげ、その理由を考える。 (2)便利と思うものとその理由について、友達と話し合う。 (3)「便利」とはということかを考える。 * 自分の生活体験から考えさせる。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ)
					2 〈たしかめよう〉 2. 具体例をとおして「便利」について考える。 (1)本文中に書かれている具体例の数を確認する。 (2)「終わり」の部分を読点に読み、筆者は、誰にとって「便利」で、誰にとってそうでないと述べているか、表に書いて整理する。 (3)全体で確認する。	
					3 〈くわしくよう〉 3. 筆者の考えを捉える。 (1)文章構成を確認する。 (2)「終わり」の部分を読点に読み、筆者の考えを読み取る。 (3)筆者はこの文章をとおして、「便利」であるとはどのようなことだと述べているか整理する。	【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア)
					4 〈まとめよう〉 4. 筆者の考えと自分の考えを比べてまとめる。 (1)筆者の考えを確認する。 (2)第1時でもった自分の考えと筆者の考えを比べる。 (3)まとめたことを発表する。 * 自分の考えをもつときは、経験をもとにまとめるように促す。	【態度】 ・積極的に筆者の考えと自分の考えを比べながら読むことをととして、具体例な経験をもとに考えをまとめることの有効性に気づいている。
					5 〈つたえあおう〉 5. 前時にまとめた考えを発表し、共通点や相違点を明らかにする。 (1)まとめたことをグループで発表する。 (2)発表をもとに、共通点と相違点を明らかにする。 (3)明らかになったことを隣どうして伝え合う。	
					6 〈ふり返ろう〉 6. この学習をとおして「気をつけたこと」を整理し、次の学習に生かすことができるようにする。 (1)「便利」ということについての筆者の考えを読むとき、どのようなことに気をつけたのか発表する。 (2)「だれにとっても『便利』である」ことがどのようなことなのかまとめるとき、どのようなことに気をつけたのか発表する。 (3)学習感想をまとめる。	
3学期	1月	1 (話す聞く1)	目で見える言葉で話そう 手話であいさつをしよう 教科書:P92 ◇声を使わないで考えや思いを伝え合う手話について知り、簡単な挨拶をする。 ☆学習用語:手話	話聞	1 〈見通しをもとう〉 1. 手話を見た経験について話し合う。 * 手話は声を使わない目で見える言語であることを確認する。 2. 手話で挨拶を表現する。 (1)こんにちは・よろしくお願いします・いただきます／ごちそうさま・ありがとう * 体験する段階なので、声で補ったり、動画で確認したりするなど、手話に親しむことができるように配慮する。 * 朝の会や授業開始の挨拶等で実際に使ってみるとよい。 (2)他にも手話で知りたい表現がないか話し合う。 * 図書資料やタブレット端末などで調べてみてよい。 〈ふり返ろう〉 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A(2)ウ) 【態度】 ・手話には考えや思いを伝えるはたらきがあることに気づき、学習課題にそってすすんで手話であいさつをしようとしている。

3学期	2月	8 (話す聞く8)	六 調べてわかったことを発表しよう 「便利」をさがそう 教科書:P94 ◇調べてわかったことを、相手に伝わるように資料を示したり、話し方を工夫して、発表する。 ★ここが大事:資料を使って、伝わるようにくふうして発表する ☆学習用語:引用／出典	話聞	1	〈見通しをもとう〉 1. 単元名やリード文を読み、調べてわかったことについて資料を使って発表するという活動内容を確認し、学習計画を立てる。 (1)調べてわかったことを発表した経験を振り返る。 (2)資料を示して発表することを確認する。 * P94～101の内容を確かめ、単元の活動全体をつかむようにする。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解使っている。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) 【言語活動例】 ・質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A(2)イ) 【態度】 ・身のまわりの「便利」について調べ、わかったことを図などの資料を示しながら、言葉の調子や強弱、間のとり方に気を付けて発表しようとしている。
					2・3	〈決めよう・集めよう〉 2. 身のまわりの道具や設備について振り返り、どんな人でも使いやすくなる工夫について、どんなものがあるか話し合う。 * ユニバーサルデザインやバリアフリーといった視点で考えるように促す。 3. 詳しく調べたい道具や設備を決め、どんな人でも使いやすい工夫について調べる。 * 4～5人の小グループごとにテーマを決める。	
					4・5	〈組み立てよう〉 4. 調べてわかったことを整理し、発表の組み立てを考えて、練習する。 (1)調べてわかったことを持ち寄り、発表の組み立てを考える。 * P96の発表計画表をもとに、発表の組み立てについて話し合う。話す内容と、どの資料をどのように示すか、P97の資料例を参考に考えるようにする。 (2)発表の練習をする。 * 「『○○』という本によると、……」「この資料は、『○○』というサイトから引用したものです。」など、資料を示す際の言い方や留意点についてP100を例にして確認する。 * 聞き手のことを考えて、資料の使い方や間のとり方に気をつけるようにする。 * 発表について協力するグループを決め、互いに練習を見せ合い、意見をもらってもよい。	
					6・7	〈話そう・聞こう〉 5. 発表会を行う。 (1)話すめあて・聞くめあてを確認する。 (2)グループごとに発表をする。 〈伝え合おう〉 6. 質問や感想を伝える。 * グループの発表ごとに質問や感想を伝える時間をとる。発表、質問・感想の流れを繰り返すようにする。	
					8	〈ふり返ろう〉 7. 学習を振り返る。 * P101「ここが大事」を確認し、図などの資料を使って発表するとき、聞き手に伝えるためにどんな工夫をしたか振り返る。	
3学期	2月	2	言葉の広場⑤ 点(、)を打つところ 教科書:P102 △読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。 ☆学習用語:読点	言語	1	1. 「かぜを早く治すには～」の例文を読み、読点のはたらきや読点の必要性に気づく。 * 読点を打つことによって、文が読みやすくなることに気づかせる。読点を打っていない文が読みづらく感じられるのはなぜか考えさせる。 2. P102・103の①③を読んで、読点の打ち方を理解する。 * 児童にとってわかりやすく実際の文章にも現れやすいものから説明する。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。((1)ウ) ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで句読点のはたらきを理解し、学習課題にそって、文や文章の中で適切に使用している。
					2	3. P102・103の②④を読んで、読点の打ち方を理解する。 4. 「点を打つところ」に気をつけて、設問に取り組む。 * 文の意味を確認しながら、読点を打つ箇所を考えさせる。 5. 学習を振り返る。 * 文を書くときにも、読む人の立場に立って読点を打つようにする意識をもたせたい。	

3学期	2月	9 (書く9)	七 伝えたいことをはっきりさせて書こう 自分の成長をふり返って 教科書:P104 ■様子がわかるように、よりよい表現を選んで書く。 ★ここが大事:伝わりやすい組み立てで書く／文章を読み返す ☆学習用語:組み立て表／会話文／段落／主語／述語	書く	1	〈見通しをもとう〉 1. 学習の流れを知り、見通しをもつ。 (1)自分の成長を振り返ることは自分にとってどんなよいことがあるのか考える。 (2)「学習の進め方」を読んで学習の流れを知り、見通しをもつ。 (3)文例「あきらめない気持ち」を読んで、書かれている内容や工夫されていることを話し合う。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。((1)ウ) ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) ◎「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア)
					2	〈きめよう・集めよう〉 2. 自分の成長を感じたできごとを思い出し、書くことを決める。 (1)学級で一年間のできごとを振り返ったり、一人で日記などを振り返ったりして、題材を決める。 (2)題材について詳しく思い出して、メモに書き出す。 (3)グループで、伝えたいことについて話し合う。 * 一人で思いつかない児童には、友達にインタビューさせて書かせるなど、まず口頭で言わせるようにする。	
					3・4	〈組み立てよう〉 3. 組み立て表を書き、友達と意見を交換する。 (1)メモをもとに、いちばん伝えたいことが中にくるように組み立て表を作る。 (2)友達に書く内容を説明しながら意見交換する。 * いちばん伝えたいことが詳しくなるように、友達に質問してもらい、詳しく書けるようにする。 (3)意見交換したことをもとに、組み立て表を完成させる。	
					5～7	〈書こう〉 4. 文章を書く。 (1)組み立て表をもとに、文章を書くことを確認する。 (2)書き出しの工夫を考える。 * 会話文や心内語を多く入れるなどの工夫を促す。 (3)原稿用紙に文章を書く。 * 中心となる場面を「中」にし、詳しく書かせる。 * 段落意識をもたせ、場面ごとに段落を変えるようにさせる。 * 書く順番は「中」からでもよいことを伝える。	
					8	〈読み返そう〉 5. 文章を読み返す。 (1)できあがった文章を読み返して、書き直したり、書き足したりする。 (2)友達と作品を読み合い、いちばん伝えたいことが伝わるか交流する。 (3)友達の意見を参考に、書き足りないことや書き直したいことを下書きの原稿用紙に書き込む。 * 中心となる場面が詳しいか、文字のまちがいや主語・述語のねじれはないか、気持ちを表す言葉はその言葉で適切か、段落分けはできているか、などを確認する。	
3学期	2月	1 (書く1)	言葉の文化④ 雪 教科書:P110 △「雪」を扱った言語表現を集める。 ☆学習用語:「雪」に関わる言葉	文化	9	〈伝え合おう〉 6. 文章を読み合い、感想を伝え合う。 * 内容面で感想を伝えるだけでなく、書き方の工夫も伝えるようにする。 * 心の動いた場面が詳しく書けたかどうか振り返らせる。 〈ふり返ろう〉 7. 学習をふりかえる。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。((3)イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) 【態度】 ・長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味をすすんで知ろうとし、学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。

3学期	2月	2	漢字の広場⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け 教科書:P112 △異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。 ☆学習用語: 同じ読み方の漢字／訓読み	漢字	1	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 2. 「はい」を例に、場面の様子や意味をもとに同じ訓の漢字の使い分けについて考える。 3. 設問1の「なく」を例に、場面の様子や意味をもとに同じ訓の漢字の使い分けについて考える。 4. 設問2の「以外・意外」「機械・機会」を例に、同じ音の漢字の使い分けについて、熟語の意味をもとに考え、話し合う。 * 同音や同訓の語の中には「意外」と「以外」、「熱い」と「厚い」のようにアクセントによって弁別できるものがある。同じ読み方の部分に注意しながら用例の文を声に出して読み、言葉の響きへの関心を高めるようにする。 5. 同じ訓の言葉(異字同訓)や同じ音の熟語(同音異義語)のそれぞれの意味を国語辞典で調べて、短文を作り、漢字の使い分けについて話し合う。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ 【態度】 ・すすんで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し、学習課題にそって、文や文章の中で正しく使おうとしている。
					2	6. 同じ読み方の漢字の使い分けについては、別の言葉に言い換えて考えるという方法を知り、設問4を解く。 * それぞれの言葉の違いを国語辞典で確認させる。 7. 異字同訓や同音異義語を使った短文を作り、それぞれの意味の違いを話し合う。	
3学期	2月	2 (書く2)	三年生で学んだ漢字⑥ 教科書:P114 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	漢字	3・4	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 9. 三年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 10. 書いた文を見直し、適切な表現にかえたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 11. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、お話の一場面を書こうとしている。
3学期	3月	8 (書く2)	八 登場人物のせいかくや気持ちのうつり変わりを読もう 人形げき 木竜うるし 教科書:P116 □登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考えながら読み、考えを伝え合う。 ★ここが大事: 登場人物のせいかくや気持ちの変化をとらえて読む ☆学習用語: 脚本／ト書き／地の文	読む	1	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 * 初発の感想を書き、それをもとに登場人物の性格や考え方の違いを読むという学習の課題を確認する。 * 『木竜うるし』は人形劇であり、「脚本」の形で書かれている。脚本がどんな文章か、これまで学習してきた物語文と比べて確認させる。 * 脚本は、「せりふ」と「ト書き」からできていることを知る。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C(1)カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2)イ)
					2	<たしかめよう> 2. 作品の全体をつかむ。 (1)それぞれの場面でどのようなできごとが起きたかを確かめて、おおまかにまとめる。 (2)登場人物について思ったことを書く。	
					3・4	<くわしくよう> 3. 登場人物の性格や気持ちの移り変わりを読み取る。 (1)「一」の場面の「深いふちのそば」を読んで、権八と藤六の性格について話し合う。 * 「ここが大事」を確認し、せりふや行動を手がかりに、権八と藤六の性格の違いを読む。また、それが表れるように工夫して音読する。 (2)権八の気持ちが少しずつ変化していることがわかるせりふと、そこを選んだ理由をノートにまとめて発表する。 * 起伏する感情や意思が大きく表れている箇所線に線を引いていけば考えやすい。 * 権八は、自分の欲の深さを多少は自覚している。そこから、気持ちが変わったわけを考えるようにする。 * 権八は、冒頭と結末とで言動や気持ちに大きな変化が見られる。権八の気持ちが変化し始めたのはどこからなのか、どのように変わっていったのかを、せりふを通して考えさせる。 * P140の「言葉」については、学習活動の中で適宜取り扱う。	
					5・6	<まとめよう> 4. 権八の気持ちが変わったのはなぜか、自分の考えをノートに書く。 * 「変わったわけ」については、前後の状況を踏まえながら、根拠をはっきりさせて想像を膨らませるようにする。 * 権八の気持ちの変化を、藤六との関わりも重ねて考えさせる。	
					7・8	<つたえあおう> 5. 権八と藤六の性格や、権八の気持ちの変化を、ノートに書いたことをもとに話し合う。 * どうしてそう考えたのか、根拠をはっきりさせて自分の考えを伝えさせるようにする。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物の性格や気持ちの移り変わりがどのような部分からわかったか振り返る。 (2)友達の考えを聞いて、自分の考えと似ているところや違うところを見つけ、感想をもつ。	【態度】 ・積極的に登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考え、学習課題にそって、考えたことを根拠をはっきりさせて伝え合おうとしている。

3	3月	2 (話す聞く・書く1)	ひろがる言葉　これまで　これから 教科書:P142 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	書く	1・2	1. 一年間の国語の学習を振り返る。 * 上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。 * 挿絵やふきだし、『四年生で学ぶこと』を参照させる。 * 楽しかったことを中心に思い出させる。 2. 自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 * 心に残っている単元や教材、学習活動、言葉などを具体的にメモさせる。 * 友達の発表を共感して聞き、学んできたことを共有できるようにする。 3. 五年生になったら2で出合ったことがどのように広がっていくのか想像したり希望を出し合ったりする。 * 五年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など、いろいろな観点で話し合わせる。	【知識・技能】 ○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態度】 ・すすんで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、一年間の国語の学習を振り返ったり次学年への希望を話し合ったりしようとしている。
---	----	-----------------	--	----	-----	---	---